

課題名	143 プロイラーの産肉能力検定								分類	②
	プロイラーの銘柄別の産肉性能と特徴									
試験研究年次	平成元年 (完了)									
I 目的 プロイラーの銘柄別の産肉能力と特徴を明らかにするため検定を実施し、銘柄選定及び飼養管理上の指針とする。										
II 試験方法										
検定銘柄	ノーリン502		アーバーエーカー		チャンキー		ハバード		コップ	
性別	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌
検定羽数 (羽/1区)	70	70	70	62	70	70	70	70	70	70
飼養密度 (羽/3.3m ²)	33	41	33	36	33	41	33	41	33	41
試験期間	平成1年10月19日~平成1年12月21日 (63日間)									
鶏舎	開放平飼い鶏舎									
供試飼料	1~3週齢:前期用(CP 23%, ME 3,000kcal/kg) 4~8週齢:後期用(CP 18%, ME 3,170kcal/kg) 9週齢:仕上げ用(CP 18%, ME 3,170kcal/kg)									
III 主要成果の概要 本検定では、各銘柄の特徴を明らかにした。										
1. ノーリン502 生体重は他銘柄に比べ小さく、正肉歩留まりも低かったが、腹腔脂肪付着率が検定銘柄中最も少ない。また、生体重における前検定成績との比較では、検定銘柄中最も増体が大きく、外国鶏との差は年々小さくなっている。										
2. アーバーエーカー 雌の腹腔脂肪付着率がやや高い傾向にある。飼料要求率は銘柄間差が小さかったが、雌雄ともに平均して優れる傾向であった。										
3. チャンキー 育成率が良く、生体重、正肉歩留まりともに良い傾向にあるが、腹腔脂肪付着率が高い傾向にある。死亡羽数が少なく増体が優れるため、管理のしやすい銘柄といえる。										
4. ハバード 育成率、生体重、飼料要求率、腹腔脂肪付着率、生産指数とも平均値とほとんど差がなく、平均的な銘柄である。										
5. コップ 育成率は最も低かったが、生体重が大きかったため生産指数で検定銘柄中最も高い値を示した。また、正肉歩留まりも良く、腹腔内脂肪付着率も低い傾向にある。育成の管理に十分留意すれば、経済的に優れた銘柄である。										
6. 銘柄によっては、雌雄において正肉歩留まり・腹腔内脂肪付着率に顕著な差が認められた。										

IV 主要成果の具体的データ

第1表 検定成績(0~9週齢)

銘柄	性別	育成率 (%)	生体重 (g)	飼料 要求率	正肉歩留まり (屠体比:%)	腹腔脂肪 付着率 (屠体比:%)	生産指数
ノーリン 502	雄	93	3.420(+296)	2.29	39.2	3.0	230
	雌	99	2.775(+296)	2.37	39.9	3.7	184
	平均	96	3.098(+289)	2.33	39.5	3.4	207
アーバー エーカー	雄	91	3.628(+49)	2.24	41.7	3.4	247
	雌	98	2.929(+144)	2.31	40.1	4.7	199
	平均	95	3.278(+96)	2.28	40.9	4.1	223
チャンキー	雄	97	3.713(+78)	2.22	42.7	4.1	263
	雌	99	2.900(+121)	2.42	41.8	4.2	189
	平均	98	3.306(+99)	2.31	42.3	4.2	224
ハバード	雄	93	3.527(-97)	2.23	39.1	3.9	245
	雌	99	2.830(-55)	2.39	39.3	3.6	189
	平均	96	3.201(-76)	2.30	39.2	3.8	217
コップ	雄	93	3.802(+150)	2.29	41.6	3.5	250
	雌	96	3.063(+91)	2.29	43.4	3.4	209
	平均	94	3.432(+120)	2.29	42.4	3.5	230
平均	雄	93	3.627(+95)	2.25	40.9	3.6	247
	雌	98	2.899(+119)	2.35	40.9	3.9	194
	平均	96	3.163(+106)	2.30	40.9	3.8	221

- 注) ① 生産指数 = (育成率 × 生体重) ÷ (飼料要求率 × 出荷日齢) × 100
 ② 飼料要求率 = 総飼料消費量 ÷ 検定終了時総生体重
 ③ 生体重の()は、56~61年を通じての検定成績(最高成績)との差
 ④ 正肉歩留まり = (胸肉Ⅲ型 + 腿肉Ⅱ型 + ささみ) ÷ 屠体重

V 成果の評価と取扱上の留意点
 銘柄選定及び飼養管理上の参考となる。

VI 今後の研究上の問題点
 雌雄別飼いによる飼養管理技術の確立。

VII 資料名
 昭和56、57、59、60、61年度 福岡県農業総合試験場畜産関係試験成績書